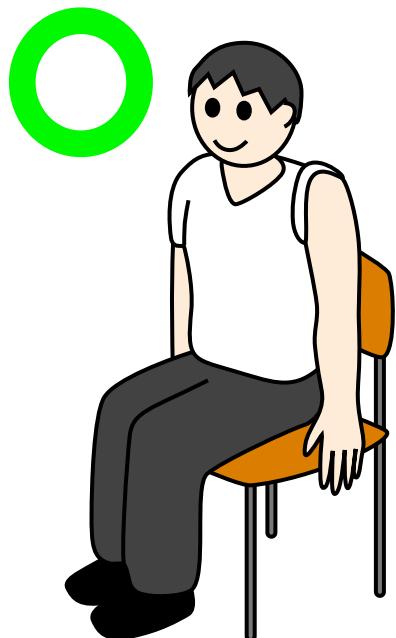
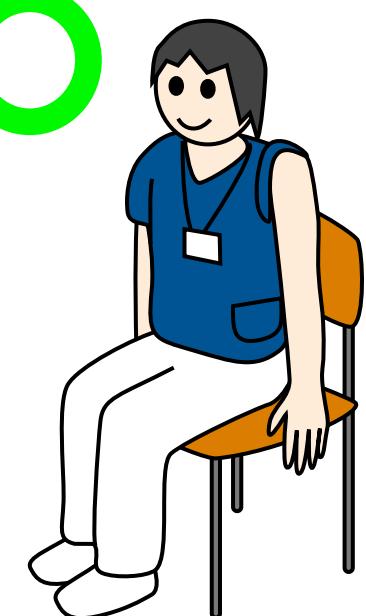


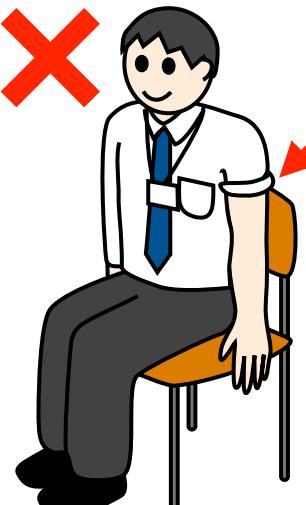


筋肉注射手技マニュアル v1.7

奈良県立医科大学
整形外科・臨床研修センター
仲西 康顕 2021年4月



筋肉注射される者は背もたれのついた椅子に座り、
肩峰から上腕までしっかり露出する。
肘は自然に下ろした姿勢で、手のひらが体幹を向くように

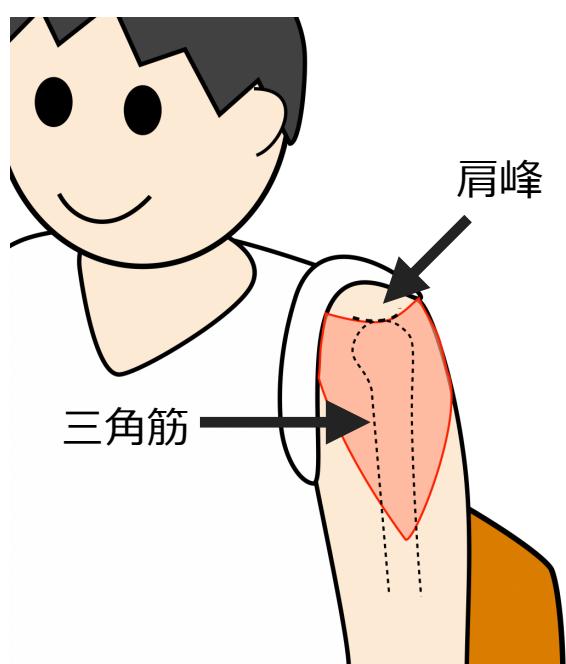


肩が十分露出されていない

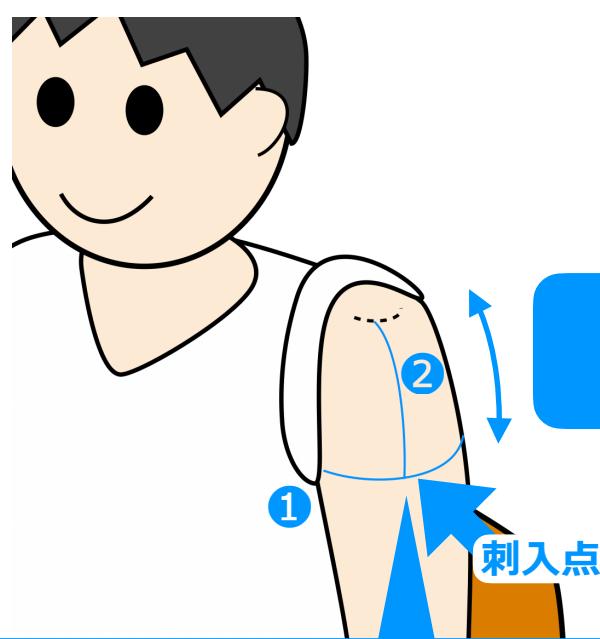


内旋禁止！

橈骨神経を誤って穿刺する危険！



まず肩峰と三角筋をよく触知しておく



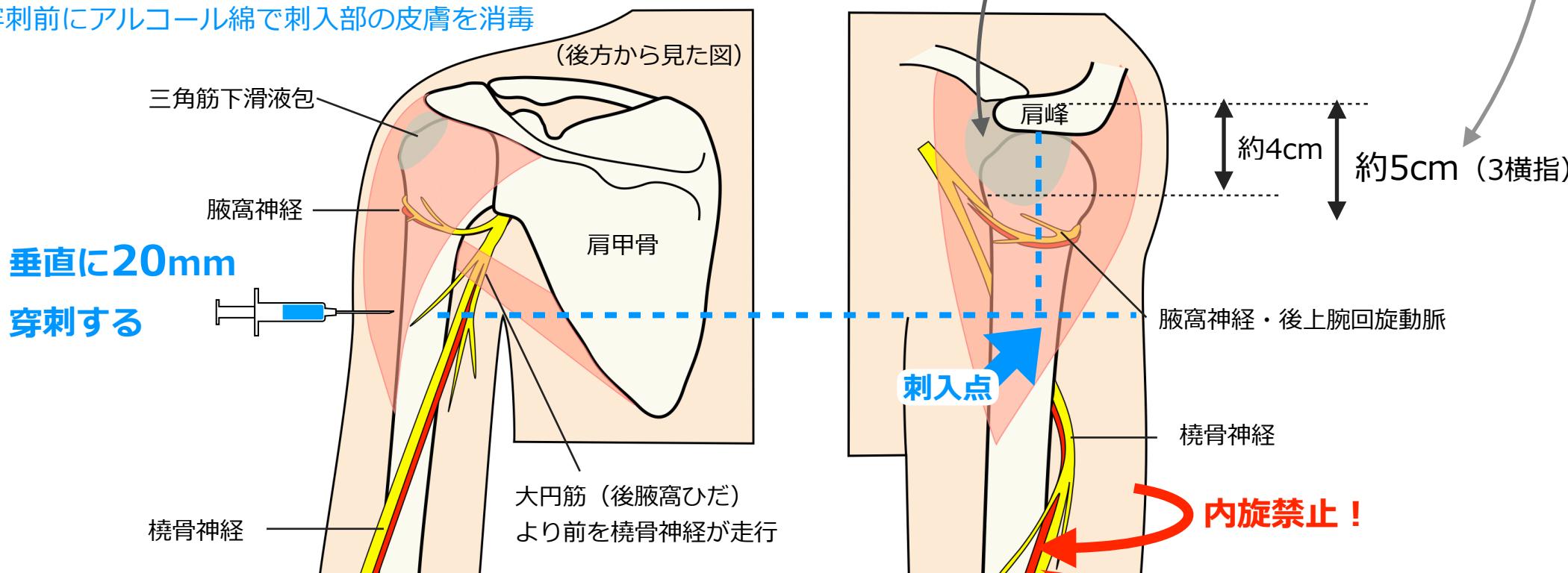
- ①前後の腋窩ひだの上縁を結ぶ線
(上腕と体幹が分かれる高さ) と、
②肩峰中央からの垂線の交点が刺入点

従来教科書に記載されている、「肩峰から3横指下」は、腋窩神経に当たる高さのため、好ましくない

約10cm前後に
なることが多い

肩峰より平均約4cmまでの高さには、
三角筋下滑液包が三角筋の裏に存在する。
ワクチンの誤注入によるSIRVA
(Shoulder Injury Related to Vaccine
Administration)が海外で多数報告されて
おり、穿刺を避ける。

穿刺前にアルコール綿で刺入部の皮膚を消毒



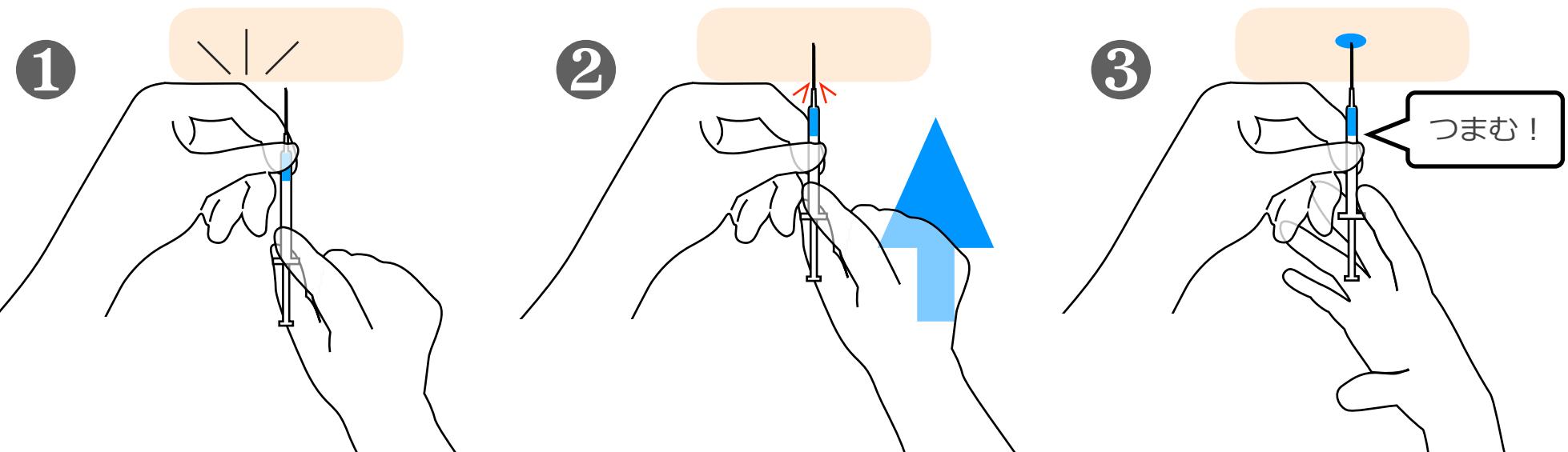
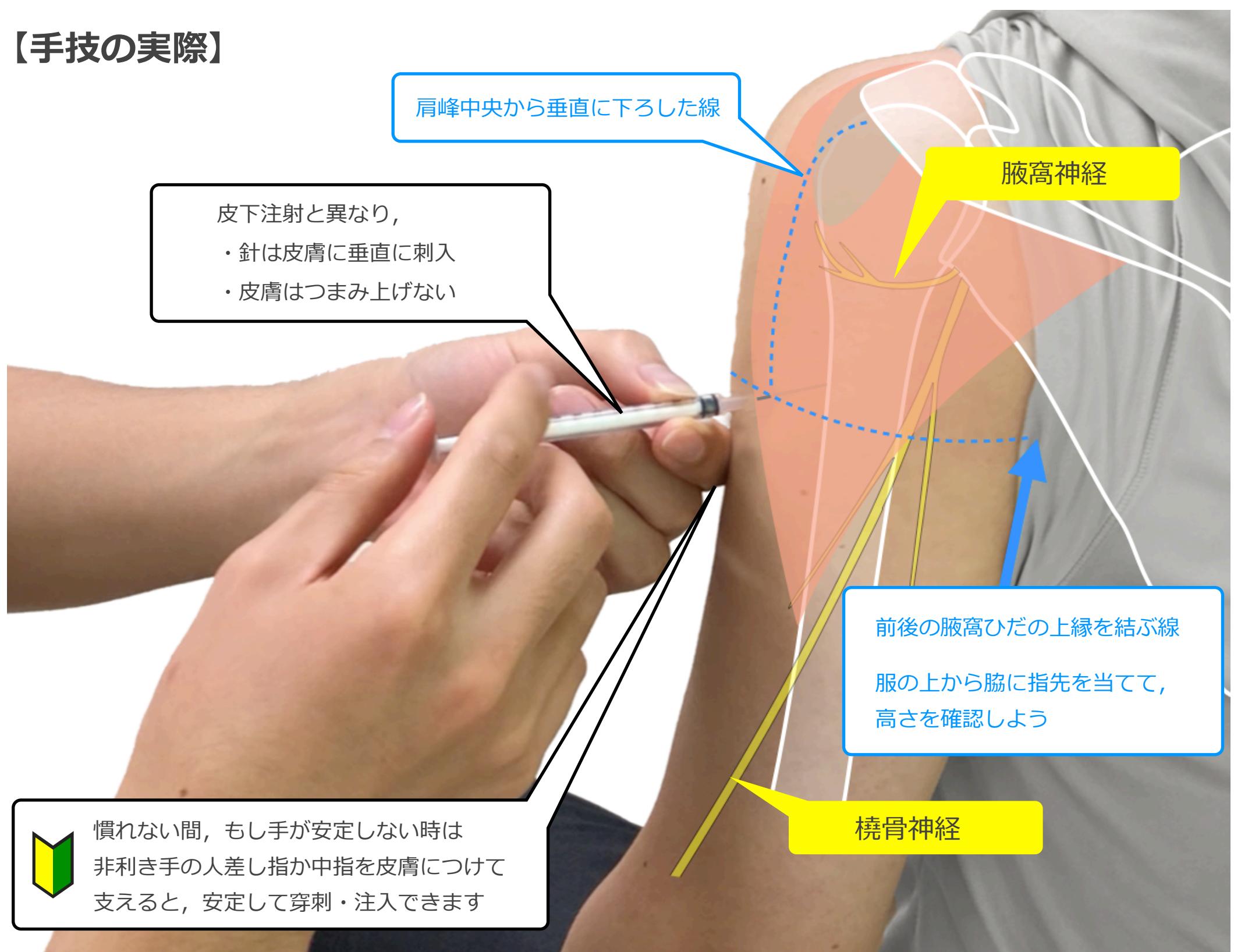
- 血液の逆流の確認は必ずしも必要ではない
- 骨に当たった場合は、2,3mm引き戻してから注入
- 強い痛みを訴えた場合は、針は一旦皮膚から抜くこと
- 注射後に揉む必要はない

※肘を張った姿勢で、肩を内旋して注射すると
橈骨神経を損傷する可能性がある

ワクチンの筋肉注射手技の国内における問題点：
末梢神経損傷およびSIRVAについて
仲西康顕 他 中部整災誌 64:p1-9, 2021



【手技の実際】



「刺した瞬間に、接種される人が動いたらどうしよう？」と、左手で腕をつかみたくなるかもしれません、
実際はそんなに動かれることはないです。むしろ刺入位置がずれたり、深く刺さりすぎたりしにくい方法です。

